

## 1 通学路の現状と課題

### ■現状

千葉市内には、令和4年度時点において、108校の市立小学校があり、児童数約4万5千人が通学路を通り、登下校を行っている。本市では、平成24年に京都府亀岡市で発生した通学路での事故を受け、「千葉市通学路交通安全プログラム」に基づく点検及び対策に取り組むとともに、「千葉市通学路のカラー化計画(以下、「当初計画」という。))」を平成28年に策定し、スクールゾーンである学校から半径500m以内の通学路の路肩を計画的にカラー化する事業に取り組んできた。そうしたなか、令和3年6月に発生した八街市での事故を受け、各種安全施設の整備に加え、当初計画を2年前倒しし、道路延長116kmの整備を令和4年8月に完了させた。

### ■課題

- ・スクールゾーンの外側の通学路への安全対策が必要である。
- ・施工から長期間経過した区間では、カラー舗装の劣化が進行しており、補修の必要性が高まっている。

## 2 路肩のカラー化の整備効果について

### ■概要

整備効果を検証するため、令和4年度にカラー化を実施した箇所から19地点(15校)を抽出し、安全性向上に関する調査を実施した。

### ■調査結果

#### ① 通過車両の速度

○調査地点を通過する車両の平均速度が4km/h低下した(整備前)28km/h ⇒ (整備後)24km/h

○時速30km/h以上で走行する車両の割合が2%減少した(整備前)52.2% ⇒ (整備後)49.8%

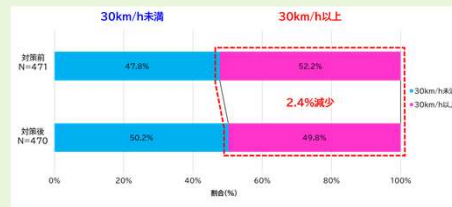
#### ② 車両の通行位置

車両の通行位置が民地側(歩行者が通行する部分側)から道路中央側方向へ平均11cmシフトした。  
⇒ 車両と歩行者との離隔が増加することにより、安全性が向上

#### ③ 児童の通行位置

カラー舗装の内側(※1)を通行する児童の割合が12%増加した。(整備前)40.0% ⇒ (整備後)52.0%

(※1)カラー化整備前は、カラー舗装の施工予定部分の内側



時速30km/h以上で走行する車両の割合の変化



路肩の内側及び外側を歩く児童の割合の変化



路肩のカラー化前の状況



路肩のカラー化後の状況

## 3 学校関係者へのアンケート調査について

### ■概要

路肩のカラー化の整備効果について、全市立小学校(108校)の学校関係者へアンケート調査を行った。

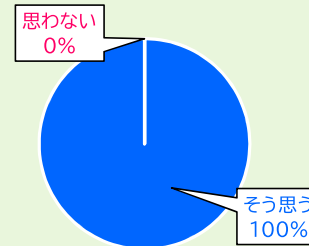
### ■調査結果

学区内でカラー化の実績がある全ての学校がカラー化により通学路の安全性が向上したと感じており、スクールゾーンの外側にも範囲の拡大を求める意見が多かった。

※学区内でカラー化の実績がある98校を対象とした集計結果であるが、カラー化の実績がない学校からもカラー化に賛同する意見が多かった。

#### Q.

路肩のカラー化が整備されたことにより、通学路の安全性は向上したと思いますか。

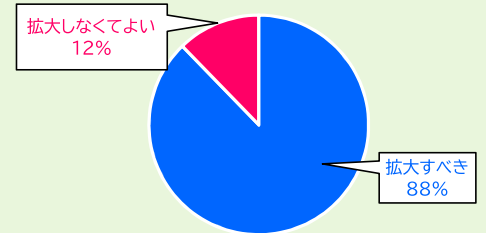


#### 拡大を求めない学校の主な意見

- ・学校周辺の交通状況から、スクールゾーン内が妥当との意見
- ・カラー化も一定の効果があるが、狭い道路においては、道路の幅が望ましい

#### Q.

これまでスクールゾーン内の通学路を対象路線として路肩のカラー化を整備してきましたが、スクールゾーンの外側の通学路にも対象路線を拡大した方がよいと思いますか。



以下の2点が確認されたことから、第2期計画を策定する。

- ① カラー化による通学路の安全性の効果が確認されたこと
- ② スクールゾーンの外側にも範囲の拡大を求める意見が多かったこと

## 4 千葉市通学路のカラー化計画(第2期)の内容

### ○整備内容

#### (1) 新規整備

スクールゾーンの外側の歩道等のない通学路を対象とした新規路線の整備 (L=40km)

#### (2) 補修

過年度に整備済みの路線で色落ちが進行している区間の計画的な補修 (L=30km)

計画期間: 令和5年度～令和9年度(5年間)

年度	(1)新規整備	(2)補修	年間整備延長
令和5年度	10km	3km	13km
令和6年度	10km	3km	13km
令和7年度	10km	3km	13km
令和8年度	10km	3km	13km
令和9年度	-	18km	18km
合計	40km	30km	70km

### (留意事項)

整備にあたっては、「千葉市通学路交通安全プログラム」の合同点検に合わせ、交通状況や学校の意見などを踏まえ、整備路線の優先順位等を検討したうえで実施する。

また、通学路の変更が生じた場合も、必要に応じて対応する。